



1 自己評価

I 評価結果・・・B（ほぼ目標通り）

(1) 確かな学力を育てる

- わかる授業づくりとして英語（1・2年）、数学（1・3年）において、習熟度別少人数指導を実施。また、研究授業を年3回1教科ずつ実施。
- 朝読書を実施し、読書活動の充実を図った。
- 授業規律の定着のため授業開始時の生徒指導の徹底、校内研修で共通理解。
- 学習習慣の定着に向け、放課後のミニ学習を計画的に実施し、基礎学力の定着を図った。校内一斉基礎テストで意欲を高めた。

(2) 豊かな心を育てる

- 道徳教育の充実
 - ・あいさつ運動・ボランティア活動・職業体験などの地域社会との関わりを通じて、「自らの生き方」を考えさせた。
- 人権教育の充実
 - ・人権教育により「自立と共生」「夢や希望」「思いやりの心」等を育む

(3) 主体的に考え、行動できる生徒を育てる

- 学校行事・生徒会活動・部活動等に積極的に取り組ませ、感動ある学校生活を送ることができるよう努めた。
- 「あいさつ」「ヘルメット着用」等、生徒会が主体となった活動の推進

(4) 地域や保護者と連携した教育活動を推進する

- 学校公開等を通じて、学校行事や授業等を公開。また、学校だより・ホームページ等により学校情報を発信。
- 学校評価アンケートを実施し、結果を公表するとともに、学校経営に改善を図る。また、学校関係者評価を実施。
- 地域や保護者、学校が一体となって、登下校の安全、ボランティア活動等を意識させる取り組みを実施。

II 分析・改善策

学校評価アンケートの結果で、生徒の「友達や他の人と仲良くしている」「学校生活は楽しい」の項目、保護者の「友達が多いと言っている」「学校へ行くのが楽しいと言っている」の項目において、「よくあてはまる」「だいたいあてはまる」の合計が80%を超えており、生徒・保護者共に教育活動におおむね満足していることがうかがえる。

学習面では、定期テストや全国学力状況調査の結果を見ると、二極化しており、全体的に下位層が多い傾向がある。改善の方策としては、校内研修等で授業力の改善、補充学習の実施をさらにすすめると共に、学習の基盤となる、生徒の基本的な生活習慣についての指導や家庭への協力をお願いしていく。

2 学校関係者評価委員会

高森 博	(学校評議員・高倉小学区)
有木 信子	(学校評議員・林田小学区)
大谷 英人	(学校評議員・高田小学区)
後藤 福宏	(学校評議員・東小学区)
道畑 時信	(学校評議員・鶴山小学区)
西尾 保	(学校評議員・中道中学校区「育てる会」会長)
西坂 治	(学校評議員・元東苔田公民館長)
本多 正明	(学校評議員・中道中PTA会長)

3 学校関係者評価

外部アンケートの結果・学校の現状から、本年度の教育は概ね評価できる。しかし、「緊急時の対応」「行事の内容、行事の参観」についての項目は、昨年度より数値が低くなっている。この結果を受け、危機管理の在り方や行事の持ち方を検討し、改善に向けて努力する必要がある。

4 来年度の重点取組（学校評価を踏まえた今後の方向性）

- (1) 確かな学力を育てる
 - ・わかる授業づくりの工夫
- (2) 豊かな心を育てる
 - ・3年間を見通した、道徳教育や体験活動、人権教育の充実を図る
- (3) 主体的に考え、行動できる生徒を育てる
 - ・学校行事・生徒会活動・部活動等で、生徒の主体的な取り組みの充実を図る
- (4) 地域や保護者との連携を図る
 - ・地域の人たちとのふれあいを育む取り組み
 - ・PTA活動の活性化
 - ・家庭と連携し、基本的な生活習慣の確立と家庭学習の定着を図る